



たまなん通信

文責：横森一哲

子どもまもり隊対面式！

5月13日（金）

毎日の登下校の際、通学路での見守りや交通指導をしてくださっている「子どもまもり隊」の皆さんとの顔合わせの機会として、全校児童と「子どもまもり隊」の方との対面式を開催しました。

会長の田中さん、市の交通指導員の望月さん他、都合がついた8名の隊員の方が参加してくださり、児童会役員の進行で、御礼の気持ちを込めて児童から校歌を披露したり、隊員のお一人お一人から自己紹介をしていただいたりしました。紹介されるたびに、いつも通学路で見守ってくださっている人が友達のおじいちゃんやおばあちゃん、また、お母さんだったことが子どもたちには嬉しかったようで、身を乗り出して自己紹介の言葉を聞いていました。

本校区の「子どもまもり隊」のみなさんの強みは、見守りの方法や頻度が様々な方がたくさん参加してくださっているおかげで、通学路のあちらこちらで大人が子どもたちを見守ってくださっていることです。さらには、学校や学校の近くまで、子どもたちと一緒に歩いてくださる方もいらっしゃるのです。これまで私が勤めた学校区で、ここまでの活動をしていらっしゃる見守り活動は、初めてです。私は、本校区の「子どもまもり隊」をいつも他の学校職員に自慢しています。

現在、「子どもまもり隊」に登録してくださっている方は31名です。地域の方々にも子どもたちの健やかな成長を見守り、支えてくださっていることを改めて実感することができました。



芸術鑑賞会！

寺田由美パーカッションアンサンブル「ドライブ」による

マリンバと打楽器の饗宴

5月17日（火）

一昨年度、昨年度と開催されなかった芸術鑑賞会が、今年度は感染対策を徹底しながら開催することができました。以前は、全校児童と一緒に鑑賞していましたが、密を避けるために午前到低学年、午後には高学年と、2回公演となりました。内容も、若干ですが、低学年と高学年で違った内容があり、子どもたちはお得に楽しめました。

「ドライブ」は東京芸術大学を卒業した演奏家を中心に構成され、メンバーはそれぞれに幅広く活躍している方々です。当日は、5人が来校され、打楽器だけのコンサートを披露してくれました。

演奏が始まると、子どもたちは、ノリノリでした。自然に体が動いたり、楽器を演奏する技に感動したりして、あっという間の時間でした。目で見て、耳で聞いて、心と体で感じていました。



自分の体を楽器にする「ボディ・パーカッション」が披露されると、子どもたちのテンションはさらに上がっていきました。そこで、「ボディ・パーカッション」の参加コーナーとなりました。手拍子、足拍子、膝打ちを組み合わせ、楽しくチャレンジしました。私も子どもたちと一緒にやってみましたが、やっぱりみんなでやると楽しいです。

子どもたちの姿を見て、直接芸術に触れることの大切さを実感しました。オンラインでも演奏を聞くことはできますが、目の前で演奏するプロの息遣いを感じ、空気や床を伝ってくる振動を感じ、一緒に鑑賞している友達を体感することがどんなに大切なことなのかを、鑑賞に入り込んでいる子どもたちの横顔から強く感じました。